― 議会傍聴記特集 ―

池袋地区の皆さんが議会傍聴にお越しくださいました

9月定例会「行政事務に関する一般質問」の2日目が行われた9月9日(火)、池袋地区の住民の皆さんが議会傍聴にお越しくださいました。池袋地区社協の企画として行われたもので、ほとんどの方が議会傍聴は初体験とのこと。

「初めての傍聴で、議会の雰囲気を体験できた」「もっと激論があるのかと思っていたが、シナリオ通りという感じ」「議員さんも一生懸命調べて質問していると思った」など、たくさんのご意見やご感想をいただきました。

富士見町議会は、これからも多くの町民の皆さんの傍聴を心よりお待ちしております。

町政に関心持とう

池袋地区社協 町議会本会議を傍聴

富士見町池袋地区社会福祉協議会（内田勝美会長）は9日、区民に参加を募って町議会9月定例会本会議を傍聴した。お年寄りから子どもや孫に地域のことを伝えてゆこうと、町への理解を深める一歩として初めて企画。中高年層の24人が参加して一般質問での議員と町長のやりとりを聞いた。

毎月区内で開く、お年寄りを中心とした区民交流の「ふれあい会」の一環。初めて議場を訪れた人も多く、皆緊張した表情で入場。「議員さんはこれしかいないの？」「女性議員は一人だけ？」などと驚いたり、「議場では全員が話し合う形で議論をしていると思った。想像と違った」との声も聞かれた。

地区社協の行事で町議会を傍聴するのは町内でも珍しく、内田会長は「高齢者も町政に関心を持つことは大切。議場の雰囲気を肌で感じ、町の取り組みや考えを聞き、地域への関心を高めてもらえたら」と話していた。

町議会本会議を傍聴する池袋区の住民

長野日報９月１２日付（「富士見」欄）に記事掲載

【議員勉強会開催】

ＪＲ東日本 ～安全への取り組み～

９月定例会最終日の９月１７日（水）に恒例の議員勉強会が開かれ、今回は「ＪＲ東日本の安全への取り組み」と題して、ＪＲ東日本長野支社の安全企画室で担当課長を務める常田幸一氏にご講義いただきました。

ＪＲは毎日、大量の人員・物資を輸送しており、ひとたび事故が発生すれば被害もそれだけ甚大になることから、安全を最優先事項として全社を挙げた取り組みを行っています。事故の原因は機器の不具合、人的要因、想定外の気象変動等様々ですが、いくつもの原因が重なることも少なくありません。発生に至る複数の段階のどこかで一つでも歯止めが効いていれば、その事故は防げる可能性が高まります。最新機器や新システムの開発、導入にも努めていますが、やはり最後は人間の問題になります。「出発進行！」「○○よし！」といった指差喚呼の光景を目にしたことがあると思いますが、単純なようでも事故発生率はこれで６分の１に激減します。

危険の可能性は無限であり、また無秩序に存在するものです。安全とは自発的に「人」が作るもの。失敗に学び、知恵を絞り、改善につなげていく不断の努力、そしてルールを愚直に守り抜く大切さを学びました。

【編集後記】

豪雪によるハウス被害の復旧は着実に進んでいるとはいえ、資材や人材はまだ不足している。冬は近い。一日も早い完全復旧を願います。

それにしても最近のお天気はおかしい。何十年に一度というような災害が頻発している。空梅雨が終わったと思ったのも束の間、盆前に台風が来て、そのまま秋雨になってしまった。時期が早いだけでなく、降水量も半端ではない。作物の病気は多発し、収穫を前にして全滅した圃場も、あちこちに見られる。農家にすれば泣き面に蜂だ。富士見町では大きな災害にならなかったことがせめてもの救いだが、九州、北海道と、ニュースを見るたびに胸が痛む。

町の課題は山のようにあり、お金は少ない。国も県も、大きな被害を受ければ対応してくれるが、予防の財布は渋い。無限のリスクと有限のお金の狭間で、議員の苦悩は続くのです。

（小池勇）

＜富士見町議会へご意見をお寄せください＞

【No.136】 平成 26 年 10 月 15 日発行

発行：富士見町議会／編集：議会広報編集委員会

委員長　佐久 祐司　　副委員長：宮下 伸悟

委　員　小池　勇　　平出 隼仁

〒399-0292 長野県諏訪郡富士見町落合 10777

TEL：0266-62-9403 ／ FAX：0266-62-9320

Email：gikai@town.fujimi.lg.jp

印刷：(株) 富士見印刷